

令和七年度鹿屋体育大学入学式学長告辞

本日ここに、鹿屋体育大学体育学部二百二名、大学院体育学研究科二十六名の新入生を迎え、令和七年度入学式を挙行できますことは、教職員ならびに在学生にとりまして、大きな喜びとするところであります。本日まで、ご子息、ご息女を温かく見守り、ご支援を惜しまれなかつた保護者の方々をはじめ、関係各位の皆様方には心からお祝い申し上げます。

鹿屋体育大学は、国立大学唯一の体育系単科大学として、「スポーツで未来を拓く自分を創る」をスローガンに、我が国のスポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する教育と研究を発展させるという使命をもった大学です。

新入生の皆さんは、本日より鹿屋体育大学の学生として、新たなスタートを切るわけですが、皆さんは、本学で何を学び、どのような夢を実現しようとして、この場に臨んでいますか？大学での学びは、卒業に必要な単位を取得することだけがゴールではありません。大学とは、自ら課題を立て、その解決策を探索する力、そして自ら考案した解決策の効果を実証する力を鍛えるところです。

学部生の皆さんが歩む学生アスリートとしての活動と学びの道は、決して平坦なものではありません。皆さんは、日々努力する過程において、様々な身体的、技術的、あるいは心理的な課題に直面し、それを克服するための試行錯誤を繰り返すことになると思います。しかし、その試行錯誤は、皆さん一人一人にとって、課題の要因を整理し、解決する力を鍛える良い機会なのです。

大学での学びをスタートするにあたり、皆さんにまず考えていただきたいことは、課題に 対するアプローチを模索する際の情報通信機器や生成AIの活用についてです。皆さんご存じのように、近年の情報通信技術の進歩や生成AIの登場は、我々のライフスタイルに大きな変革をもたらしつつあります。スポーツの領域においても、トレーニングやコーチング、あるいは個人やチームの戦術及び戦略の立案には、様々な科学技術が関与しています。また、個人レベルで大量の情報のやり取りや取得が非常に容易になりました。皆さんも、課題解決のためのアプローチを模索するうえで、検索機能や生成AIを大いに活用することになるでしょう。

その一方で、情報を容易に得ることができるという状

況は、得た情報を吟味することなく、課題に対し安易な答えを導くという事態を生み出しやすいことも事実です。そのような場合に、仮に課題の解決策を立てたとしても、それは実情に見合うものとはならず、解決策そのものには、本来備えるべき独創性、創造性といった要素が含まれないこととなります。

皆さんは、スポーツや武道を実践するうえでの基本的な力をすでに持っています。それは皆さんの独自性を示す優れた能力であり、皆さんは、実践を通して、参考にした情報の確かさや考案した解決策の効果を確認することができると同時に、それらの結果を踏まえ、更なる高みに向けたアプローチを考えるヒントを得ることができるはずです。

学部生の皆さんが学生アスリートとして取るべき学びの形、すなわち自身の競技活動における課題の明確化、具体的な解決策の探索、そして実践を通しての確認という一連のプロセスを弛みなく継続することで、皆さんは、これからの時代のスポーツや武道の指導・普及を担う者にふさわしい独創性、創造性、そして論理的思考力を身につけた人材へと成長を遂げることができると思います。

鹿屋体育大学は単科大学であり、他の総合大学に比べ幅広く学ぶ、ということには限界があるかもしれません。しかし、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの領域において、「する」だけではなく、「みる」「ささえる」「つくる」はぐくむ」といった視点から、自身の可能性を追求し能力を最大限高めるうえで、本学は多くの優れた条件を備えた大学です。是非、本学の長所を生かし切る学生生活を送ってください。

皆さんがこれからの学生生活を送るうえで基盤となる、ここ大隅の地は自然が豊かでであり、鹿屋市をはじめとする周辺地域の皆様方は、学生諸君を温かく迎え、様々な形でご支援してください。是非、大隅の地を第二の故郷と思い、頑張ってください。

最後になりましたが、本日、令和七年度入学式を挙行するにあたり、ご来賓の方々並びに保護者の皆様方のご列席を賜りましたことに厚く御礼申し上げ、新入生の皆さんへの告辞とします。

令和七年四月四日

国立大学法人鹿屋体育大学長

金久 博昭